

国立国語研究所学術情報リポジトリ

静岡市旧大川村方言：2

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003034

方言録音資料シリーズ14

静岡市旧大川村方言（2）

国立国語研究所編

1972

このテキストは、方言研究のための資料として
つくられたものであり、録音テープは国立国語研
究所に保管されている。

この巻におさめた方言の録音とテキストの作成
とは、すべて国立国語研究所話しことば研究室の
もとめによって、この方言にとくに造詣のふかい
山口幸洋氏がおこなったものである。

も く じ

収録地点とその方言について	1
本 文	5
1. 方言のこと (1)	5
2. 方言のこと (2)	19
3. 方言のこと (3)	25
4. 方言のこと (4)	35
5. 墓場の話など	46
6. ムササビのこと	54
7. 美代助や作辰のこと	56
注	62

収録地点とその方言について

1. 収録地点

静岡市上湯島（旧安倍郡大川村上湯島）

2. 地点の概観

前回報告（方言録音資料シリーズ13）と重複するので省略。藁科川上流の奥地にある。

3. 収録した方言の特色

前回に報告した通りである。ほとんど、大井川上流の井川村方言と同じ特徴を備えているが、連母音のいわゆる融合化が全くない点が、井川村方言と異なり、これがとりもおさず静岡市内（昭和44年4月1日より、旧安倍郡全域を吸収した）においてこの方言を孤立的な地位におく。又、音韻上 /e/ と /we/ が対立する点も井川と比較される。ギラと呼ばれる独得の文アクセントは最も注目すべきである。

4. 地点選定の理由

前回同様、この地方は従来、井川村に比し「無名の避地」であった。

5. この録音採用の理由

江戸時代より続くこの地点の庚申講は、ほぼ2カ月に1度、古風な形態を伝えながら行なわれているが、この録音は、その庚申講の夜、集まった7人が、お祈りをする前の酒食の席におかれたマイクによるものである。この7人は、すくなくとも「文政六年」以来の、当時の「七人の仲間」の子孫達であり、上湯島（現在でも、8軒しかない）はえぬきの人達である。この7人の最年長者は大正8年生れで、年少者は昭和14年生れという

比較的若い層であるが、方言の「勢い」はなかなかおとろえていないことが感じられる点に興味もたれる。

6. 収録の経過

昭和45年7月17日に私(山口)は下湯島の大森実雄さん、上湯島の湯本幸作さんに会って、庚申講のことを聞き、8月8日に訪れた。湯本幸作さんの紹介を得て当日の頭屋の森下忠喜さんに、同席させて頂きたい旨、頼むと、快よく受入れて下さった。夜8時20分頃に行くともう酒食の席が始まっていたが、それから10時頃まで雑談をしながら私もごちそうになった。そのあと縁側へ出て手を洗って、皆で読経をする。そのあと、又、雑談。本来は「人の悪口を云っても良いから12時すぎまで、しゃべってすごさなければならない。できるなら夜明けまでしゃべって良し」などと云われているが、この時は11時半の解散だった。雑談の内容は、私が決して注文したのではなかったが、殆ど、方言をめぐる話題が多かった。この時は、それで良かったと思う。

7. 表記について

前回通りである。(方言録音資料シリーズ13を参照) 「」式によるアクセント表記、'による句読表記も参考のため施すことにした。

8. 話し手

(略号) (氏名) (性別、生年) (職業)

A ^{モリ}森 ^ク田 ^{ハジメ}一 (男 大正13年生まれ) 農林業

(居住経歴) 0才～16才まで現在地、16才～22才まで静岡市(農産学校～静岡師範)22才～現在地(うち半年間兵役)。

(略号)	(氏名)	(性別、生年)	(職業)
B	ユ モト ヤス ヒロ 湯本 泰弘	(男 昭和 9 年生まれ)	農 林 業
	(居住経歴)	0 才～現在地	
C	モリ ツシ ヒロ ヨシ 森 辻 広 良	(男 昭和 5 年生まれ)	農 林 業
	(居住経歴)	0 才～現在地	
D	モリ ヨシ イチ 森 好 一	(男 昭和 14 年生まれ)	商店(自営)
	(居住経歴)	0 才～現在地	
E	ユ モト テツ オ 湯本 哲 男	(男 昭和 13 年生まれ)	農 林 業
	(居住経歴)	0 才～現在地	
F	ユ モト カズ オ 湯本 和 男	(男 大正 15 年生まれ)	土建業、大島組に勤務
	(居住経歴)	0 才～現在地。仕事で各地出張多し。清水市に半年間が最長	
G	モリ シタ タダ ヨシ 森 下 忠 喜	(男 大正 8 年生まれ)	農 林 業
	(居住経歴)	0 才～20 才まで現在地、20 才～26 才まで兵役、27 才～現在地	
Y	ヤマ グチ ユキ ヒロ 山口 幸 洋	(男 昭和 11 年生まれ)	
	(居住経歴)	0 才～浜名郡新居町	

個人的な特徴について記す。

- A ……「(用言)+のだ」を静岡県一般方言のように「～ダ」といわず、共通語のように「～ンダ」ということがある。これは「録音」を意識して方言を改めていると見られる。これ以外は問題ない。
- B ……ほとんど問題ない。
- C ……「録音」を警戒して～ノー(～ない)を使わないし、かなり冷静な話し方をする。
- D ……明晰な話しぶりで声もよく通る。文アクセントは殆どこの方言の

特徴を保持しているが、文法的な面は古いいかたはしないと見られる。

E…… 殆ど話さない。

F…… 少し酔っているが、そのせいばかりでなく道化た話しかたをする。ワカンネー（わからない）、キカレネー（きかれない）のようないかたをするが、これはこの方言本来のものでなく、静岡市方面のいかたを真似しているもの。そのほかは問題ない。

G…… この人は、私（山口）と一対一で話をするときも、殆ど大川村方言丸出しでしゃべる。又、評判でも「方言丸出し」の代表的話し手ということである。まさにその通りで七人中随一の方言の使い手。但し F と同じくあまりまとまった話をしない。ケッカ（結局）というのが口癖。

Y…… 新居町方言を基調としたことばで話す。

1. 方言のこと (1)

- 話し手 A …… 森田 一 B …… 湯本泰弘 C …… 森辻広良
 D …… 森 好一 E …… 湯本哲男 F …… 湯本和男
 G …… 森下忠喜 Y …… 山口幸洋

解 説 井川村や大川村檜尾などについての方言の評判を話しあう。大川村方言でいう、ハラがベッター(腹が減った)、シッソ(するな)、ウウオク(置く)などの例が出て、方言のことが話題になる。但し、これらは私(山口)の注文によるものではない。

D ja¹sa¹si¹:jo:na kotoba¹da¹na: na¹:
 やさしいような ことばだな な

B ja¹sa¹si¹:qcju:daka na¹ncju:daka nja¹:qtju:jo:na
 やさしいというのか 何というのか ニャーっていうような

「kja¹:qcju:jo:na koto¹:ju:dana:ika¹:wa
 キャーっていうような ことをいうんだな 井川は
 (1)

D koq¹ci¹jo¹rja: orja: ja¹sa¹si¹: tomo:ja¹:
 こっちよりは 俺は やさしい と思うよ

A na¹:ni kja¹:qte ju:koto¹wa ho:da narao-demo
 なに キャーって いうことは そうだ 檜尾 でも
 (2)

kja:ko¹toba¹da¹na, me¹sio kuqkja¹: , me¹sio
 キャーことばだな メシオククチャー(飯を食った) メシオ(飯を)

F hi¹kuwaqzaq
 ヒックワッザッ(食おう)

B kuwaza¹: zjanai¹jo, me¹sio ke: , ke¹:da
 クワザー じゃないよ メシオケー(飯を食え), ケーだ

A me¹sio kja:maika
 メシオチャーマイカ(飯を食おうよ)

B me:ʃio ke:ʔqte ju:ndaʃo (3), me:ʃio ke:, me:ʃio ke:ʔqte
 メシオ ケーって いうんだよ, メシオ ケー, メシオ ケーって

ju:daʃo (笑)
 いうんだよ

E ku:eto ju:zja:naida ke:ʔqte ju:da
 クエと いうんではないのだ ケーって いうんだ

B ke:ʔto nan:cu:dakana: ano: ku:tono ai:damitaina koto:
 ケーと 何というか あのう クーとの あいだみたいなの ことを

ju:da
 いうのだ

G ho:da ho:da, ho:da ho:da ho:da, ta:sika
 そうだ そうだ, そうだ そうだ そうだ, たしか

F hi:kuwamaika q:cu: kotowa do:qkani a:qtaqkena: me:ʃi
 ヒックワマイカ(食おう)という ことは どこかに あったっけな メシ

hi:kuwamaika
 ヒックワマイカ

G me:ʃio hi:kuwamaika q:cu: kotowa kore juzi:mano
 メシオ ヒックワマイカっていう ことは これ 湯島の

koto:baqdaʃo, me:ʃio hi:kuwamaika do:mo haraga
 ことばだよ メシオ ヒックワマイカ ドーモ ハラガ

pe:qta:
 ベッター(どうも腹が減った)

C haraga pe:qta:na:
 ハラガ ベッターナー

G haraga pe:qta: me:ʃio hi:kuwamaika:qte ju:ja:ca: kore
 ハラガ ベッター メシオ ヒックワマイカーって いうのは これ

juzi:mano koto:baqda:
 湯島の ことばだ

C haraga pe:qta:
 ハラガ ベッター

- G so'idenā: nāraono ho:no kotobā:
 それでな 檜尾の 方の ことばは
- F kuwamja:kaq, me'sio kuwamja:kaqte
 クワミャーカッ メシオ クワミャーかって
- D zjamusinaNkademo gja:musiqcju:dana:
 ジャムシ なんかも ギャムシっていうんだね
 (4)
- F gja:musiqtena:, ga:musiqcju:dana, zjamusiqcju:koto
 ギャムシってな, ガムシっていうんだな, ジャムシっていうこと
- C kokorazja:sa, abucju:o aboqtju:daina naraozja:
 ここではね アブ(虻)っていうのを アボっていうんだよ 檜尾では
- D abo:na:
 アボーな
- C abo, ma:da cigaqtajacu arudaqkejo
 アボ まだ 違ったのが あったっけよ
- A ka:saNni osowaqtada (笑)
 奥さんに 教わったんだ
- F zjamusiqcju:koto: gja:musiqcju:dajo
 ジャムシっていうことを ギャムシっていうんだよ
- G o: gja:musi gja:musiqcju:da ta:sika
 おゝ ギャムシ ギャムシっていう たしか
- F gja:musi
 ギャムシ
- G ta:sika ho:dajo
 たしか そうだよ
- C sugu cika'idaga cigaudana marude
 すぐ 近いのだが 違うんだな まるで
- A cigaujo: do:ju:wakedaka
 違うよ どういう訳か
- B da:itai, simojuzimato kamijuzimato cigauguraidada'i
 だいたい 下湯島と 上湯島と ちがうくらいだよ

- A naNsjo me¹si¹o¹na
とにかく 飯をね
- G ho:da me¹si¹o¹
そうだ 飯を
- A joku ka¹wa¹iwe sigotoi ikutona¹: me¹si¹oke: me¹si¹oke:(笑)
よく 川井へ 仕事に いくとな メシオケー メシオケー
- G a: me¹si¹o¹ kue
あゝ 飯を 食べ
- A do:ju:ko¹toda
どういうことだ
- G ho:da ho:da ho:da
そうだ そうだ そうだ
- A me¹si¹oke: me¹si¹oke:qte
メシオケー メシオケーって
- G ho:da ho:da ho:da so:ju:da
そうだ そうだ そうだ そういうのだ
- A me¹si¹oke:qte jobu (笑), me¹si¹o¹ kueqte juiso:na
メシオケーって 呼ぶ メシオ クエって 云いそうな
- mo¹Nda
もんだ
- G soide soideha¹i ha¹raga heqta¹: me¹si¹o¹ kja:maikaqte
それで それでもう 「腹が へった めしを 食おう」って
- ko:na me¹si¹o¹ kja:maikaqte ko:ju:Nda¹na:
こうね メシオ キャーマイカって こういうんだな
- Y kja:qte ju:kane: ka:maikaqte juwaNkane:
キャーって いかね カーマイカって 云わないかね
- G kja:maika¹
キャーマイカ
- A ko¹kowa juwana¹ikeredomo naraobu¹rakuwa so:ju:
こは 云わないけれども 檜尾部落は そういう

B na¹raowa¹ so¹:ju:qda¹jo¹na¹: me¹sio¹ kja:ma¹ikaqte¹ ju:koto¹:
楢尾は そういうんだよね メシオ キャーマイカって いろいろなことを

ju:¹na¹:
いうな

F bu¹cjo¹:siqte¹, bu¹cjo¹:siqte¹ ju:koto¹: siqteru¹ka¹
ブチョーシって ブチョーシって いうことを 知ってるか

Y sira¹N
知らない

D ko¹koraqzja¹ ciqkuwamaika¹qcju:qda¹i
ここらでは チックワマイカっていうんだよ

F bu¹cjo¹:siru¹qte¹ ju:dai¹
ブチョーシル(落ちる)って いうのだ

G mo¹no¹ga¹ raqka¹sirukoto:¹na¹:
ものが 落下することをね

A o¹ci¹rukoto¹da¹ne¹:
落ちることだね

F mo¹no¹ga¹ raqka¹sirukoto:¹ bu¹cjo¹:siru¹, a:¹ ano¹jaro¹:ga¹
ものが 落下することを ブチョーシル アー アノヤローが

bu¹cjo¹:siru¹ze¹qte¹ ko:ju:koto:¹na¹:
ブチョーシルゼって こういうことをね

Y o¹ci¹ruzjana¹i o¹si¹rukane¹
オチルじゃなくて オシルかね

F ja¹ma¹ga¹ o¹ci¹rutokasa¹: ano:¹ ko:ju:¹ ano:¹ mo¹no¹ga¹
ヤマガ オチル(山が崩れる)とかね あの こういう あの ものが

o¹ci¹ru¹ bu¹cjo¹:siru¹
落ちることを ブチョーシル

G bu¹ci¹ociru¹ ano¹jaro:¹ ima¹ni¹ bu¹ci¹ociru¹ze¹
ブチオチル アノヤロー イマニ ブチオチルゼ

F mi¹tete¹ mjo:¹
ミテテ ミョー(見ていてみよ)

- B a¹ tamato sirie taigai cu¹ kuq¹ dai
頭と 尻へ たいがい つくんだよ
- F bu¹ cjo: si ru
ブチョーシル
- B bu¹ cjo: si ru¹ tokasa: soide ano:
ブチョーシルとかさ それで あの
- F bu¹ q to: si¹ cju: ko¹ ta
ブットーシっていうことは
- B iq¹ pasi¹ ru¹ tokasa: na: da¹ itai¹ ho¹ re so: ju: hu: na a¹ tama¹ we¹
イッパシル(行く)とかさ な だいたいそれ そういう風な 頭へ
- ta¹ igai cu¹ iteruda
たいがい ついているんだ
- C mo¹ no: sokoi oitekaqza: qcju: koto: uq¹ cjo¹ itekazu
ものを そこへ 置いて行こうっていうことを ウッチョイテカズ (5)
- F soko¹ i uq¹ cjoiteke: jakuta¹ imonaini
ソコイ ウッチョイテケー ヤクタイモナイニ(そこへ置いて行け, つまらない)
- ku¹ ruma: okudade uq¹ cjoiteke:
クルマーオクダデ ウッチョイテケー(車を置くんだから置いて行け) (6)
- D u¹ wo itekeqcju:
ウウォイテケっていう
- A u¹ woitekeqte ju: da¹ jo
ウウォイテケ(置いてけ)っていうんだよ
- B u¹ woitekeqcja: ju: de¹ na: , u¹ woiteke: me¹ Ndoku¹ sai u¹ woiteke:
ウウォイテケなどと いうんだからな, ウウォイテケー メンドクサイ ウウォイテケー
- C so¹ Nnakota: me¹ Ndokusa¹ i
ソннаコター メンドクサイ(そんなことは面倒くさい)
- Y me¹ zurasi: koto¹ ba¹ dane:
めずらしい ことばだね
- F i¹ roiro arude¹ na: ho: ge¹ Nwa¹ na: kore jaqpa¹ ri
いろいろ あるからな 方言はな これ やっぱり

B a¹iueo¹zjuN¹ni zu:to kosiraeruto omosiro¹iwa¹na¹:
アイウエオ順に ずうっと こしらえると おもしろいな

F u¹cikura:se¹runa¹Nte, ciq¹kura:se¹ru
ウチクラーセル(なぐる)なんて, チックラーセルとも

B ciq¹kura:se¹runa¹Nte¹na¹:
チックラーセルなんてね

Y ko¹korahen¹zja: ano: ko¹domoni nakuna¹qte ju:to¹kino
こころ辺では あの 子供に 「泣くな」って いう時の

koto¹:ne: na¹iso¹qte ju:hu:ni juwaNka¹ne:
ことをね ナイソって いうふうに いわないかね

B na¹iso? na¹iso?
ナイソ? ナイソ?

Y na¹iso
ナイソ

B na¹iso
ナイソ

F na¹kuna¹qcju:koto:?
「泣くな」っていうこと?

A na¹kja:garuna¹qte ju:kota: ju:ga
ナキャーガルナって いうことは いうが

F na¹kuna¹qte ju:koto?
「泣くな」って いうこと?

B na¹isoqcja: iwano:na:
ナイソとは 云わない

G iwano:na:
云わないな

F ko¹domo naiteru?
子供が 泣いてるとき?

B muka:sino sju:wa juqtakamo sirano:
昔の 衆は 云ったかも しれない

- A na¹iso:
ナイソー
- B mu¹ka:sino sju:wa
昔の 衆は
- F juwanaina:¹, na¹kja:gaNna, na¹kja:gaNna ba¹kajaro:
云わないな ナキヤーガンナ, ナキヤーガンナ バカヤローと云った
- B na¹iso:dan¹o siq¹soqtju:koto:¹ cukaqtaqda¹na:
ナイソーだの シツソっていうことを 使ったんだよ
- G ja¹:kamasi:¹ na¹kja:gaNna, u¹rusai konojaro:¹ na¹Nte ju:
ヤーカマシー ナキヤーガンナ, ウルサイ コノヤロー などと いう
- B so¹Nnako¹to: siq¹so, joq¹si:ba:ga ano kosino¹ maga¹qta
ソナコトー シツソ およし婆が あの 腰の 曲った
- ba¹:ga ku¹zure¹no:nona:¹ ho¹re ano: a¹nosito¹N
婆が 崩野のね ほれ あの あの人が
- joku ju:¹daqja so¹Nnako¹to: omae siq¹soqtju
よく 云ったっけ ソナコトー オマエ シツソっていう
- si¹runa¹qte ju:koto:na (G¹ho¹.) siq¹soqte ju:dajo¹na:
「するな」って いうことをね シツソって いうんだよね
- D so¹rja:, ki¹:takoto aruna:¹ hu¹Nda¹N
それは 聞いたこと あるな だけど
- A so¹rja: doqkano
それは どこかの
- G ho: hoizja:¹ jaqpa ku¹zure¹no: na¹kanakajaqpa
ほう それでは やっぱり 崩野は なかなかやっぱり
- F so¹Nnako¹to: siq¹so, aq oremo, aq, sip, so¹Nnako¹to:
ソナコトー シツソ, あっ 俺も, あっ シツ ソナコトー
- siq¹so, siq¹soq¹cju:koto aqta, so¹Nnako¹to siq¹so
シツソ, シツソっていうこと あった, ソナコトー シツソ
- siq¹sojo¹q¹cju:koto aqta¹ja
シツソヨっていうこと あったよ

D jo¹siq¹cja¹e naNcja: ano: ucino ba:ga joku ju:qda¹ja:¹
ヨシッチャエ などと あの 家の 婆が よく いうんだよ

F siq¹so siqso¹jo¹ are siqso¹jo¹qcju: kota: juqta ano:
シッソ シッソヨ あれ シッソヨっていう ことは 云った あのう

hacizju: ho¹ra kju:zju:ba:saNga omae siqso¹jo¹
八十 ほら 九十婆さんが お前 シッソヨ

siq¹so jo¹kenasa¹iqcju:koto zjana¹idesuka (y¹so:so:so:)
シッソ 除けなさいっていうこと じやないですか

jokena¹sa¹iqcju:koto¹na: siqso¹qcju:koto¹wa
よけなさいっていうことね シッソっていうことは

B siq¹so, josina
シッソ よしな

Y siq¹so¹qcju:koto¹wa ja¹runa¹qcju:koto
シッソっていうことは やるなっていうこと

F ja¹runa¹qcju:koto ho:da ho:da aq¹ta si¹qso
「やるな」っていうこと そうだ そうだ あった シッソ

siqso¹qcju:koto soNnako¹ta: siq¹so
シッソっていうこと ソンナコター シッソ

A i¹ma:do¹ki zeNzeN soNnakoto¹ba cukawanai¹na
いまだき ぜんぜん そんなことばは 使わないな

B so¹rja: cuka¹wanai
それは 使わない

F a: ora¹ga ba:saN juqta orega kozo:Ntoki¹na, ano:
あゝ 俺の家の 婆さん 云った 俺が 小僧のときね あの

kokoni oqte kocui¹tokisa:, ja¹kuta¹imonaikoto:
ここに 居て 小さい時さ つまらないことを

sitatokin¹nja: siq¹so siqso¹qcja: ju:ra, a sorja:
した時には シッソ シッソと いうだろう あ それは

soremo kotobazja: wa¹ka¹qteruda¹jo siq¹so¹qcju:koto¹wa:
それも ことばでは わかっているんだ シッソっていうことは

ko:ju:koto daqcju: kotowa miNna wakaqterudake:ga na,
こういふこと だつていふことは みんな わかっているんだけどね

imazja: wakanne:ja siqsoqtaqtemo
今では わからないよ シツソといたつても

G ima: soNnako ta: josja:ga reqte ko:ju:Nda na: a:
今は ソンナコター ヨシャーガレつて こういふんだね

F soNnako ta: siqsojo, siqso siqsoqtju:da: ano
ソンナコター シツソヨ, シツソ シツソつていふのだ あの

hikoba:no ano kju:zju:ikucukade siNda ba:saNga
曾祖母の あの 九十いくつかで 死んだ 婆さんが

B soNna wairaqtju:qdaina:
ソナ ワイラつていふんだよな

A kokozja:na: ima: ima:na:
ここではな 今 今な

F a: siqsoqcju: koto: a: wakaqta ara: kokonja:
あゝ シツソつていふ ことを わかつた あるよ ここには

siqsoqcju:koto: hazimete:
シツソつていふことを はじめて

Y sorenaNka o:mukasino niqpongo dene:
それなんか 大昔の 日本語でね

A oremo hazimetedaja:
おれも はじめて聞いたよ

Y o:mukasino niqpongo dene: so rega nokoqtoqta
大昔の 日本語でね それが 残つていた

wakedane:
わけだね

F a: zja:
あゝ では

A kumaso takerunomikotodemo kitakana
くまそ たけるの命でも 来たかな

F uraɡana: , to sijo:ri:no , o:kuni:ba:q:cu:ka , ci:sa:i
 俺の家の としよりの おくに婆っというか 小さい

ka ra:da:no ci:sa:i ba:sa:n a:q:ta:ra , ano ba:sa:nga:na ,
 体の 小さい 婆さんが あつたろう あの 婆さんがね

ora ano:ba:sa:n ha:ci:zju:iku:cukade si:nda:ke:nna: , ta:ma:
 うちの あの婆さん 八十いくつかで 死んだけれどね 飴玉を

u:q:te:ru:da:i:na , a:me:da:ma ora:ga:u:ci:de so:ide ore nu:su:mi:
 売っているんだよ 飴玉 俺の家で それで おれ 盗みに

iku:dai ko: si:q:so si:q:so:q:cu:da:i ko: , so:re
 行くんだよ こう シッソ シッソっというんだ こう それ

o:moi:da:ita
 思い出した

A so:ju: kotoba: ore ha:zi:mete ki:ta:jo: si:q:so:q:te
 そういう ことばは おれ はじめて きいたよ シッソっ

ju:kotoba: ore ha:zi:mete ki:ta:jo: ore
 いうことばは おれ はじめて 聞いたよ おれ

F si:q:so:jo , si:q:so:jo:q:cu:da:jo
 シッソヨ シッソヨっというんだよ

A na:ka:q:so:q:te ju:jo:nja: ju:ke:na: , na:kuna:q:te ju:koto
 ナカッソって いうようには 云ったな 「泣くな」って いうこと

Y i:ja na:kuna:z:ja:nakute na:ka:suna:q:cu: kotoka:ne:
 いや 「泣くな」じゃなくて 「泣かすな」っという ことかね

A na:ka:suna , na:ka:q:so
 泣かすな ナカッソ

B so:ju:koto: ju:ke:na: z:ja u:ra:ga
 そういうことを 云ったな じゃあ 俺が

A o:kuno:ho:no sju:wa to:kuni cu:ka:q:ta:jo:na:na:
 奥の方(7)の 衆は 特に 使ったようだな

G hoi:da:de ke:q:ka ja:q:pa:ri ho:re ano: ha:to:ri:q:kara
 それだから その結果 やっぱり それ あの 羽鳥から(8)

o:mano aidanja: naNnimo nai ku:kaNde, atode kono
大間の 間には 何にも ない 空間で あとで この

o:maga nanio sitaqcju:daga jaqpa so:iqtawakede
大間が なにを したっていうんだが やっぱり そんなわけで

okukara kono o:ka: hira kete kitazuraka soNnako to
奥から この 大川は 開けて きたのだろうか そんなこと

B o:ka:qte ano konoka:takewa okukara hira ketaqcju:da
大川って あの この川筋は 奥から 開けたっていうのだ

G na: okukara ko:
ね 奥から こう

B soidena: ano: keqkjoku o:maqjtju:kotowasa:
それでな あの 結局 大間っていうことはさ

jama dake nisika na idaqkecjo:waja: uciga kono-
山だけにしか なかったそうだが 家が この

kawatakeni zu:qto kudaqte sonozibuNnja hasiwa
川筋に ずうっと 下って その時には 橋は

na idamoNde wataqcja:na: ikudaqkecjo:ga soide o:ki:
ないのだから 渡ってはね 行ったんだそうだが それで 大きい

aidaqte kaite o:maqte ju:daqte
あいだと 書いて 大間と いうんだって

A ma: so:ju:kotoni naqtera:na:
まあ そういうことに なってるね

B so:daqcjo:jo, soide o:maqte namaeo cuke tamō Ndaqcjo:-
そうだそうだが それで 大間と 名を つけたものだそうだ

wa

F hiqsoqte hoideko: iro riga aqtesa: na: takibio
ヒソソッテ それでこう、 いろいろが あってさ まあ たきびを

kimete takibiqte mukasi
して たきびって 昔

G hi¹ka zi¹o kakeba do¹: kakuqzura
火か 字を 書けば どう 書くんだろう

F hiq¹soqte hiq¹soqteqcu:da ko: na:
ヒソツテ ヒソツテっていうのだ こう ね

B jo¹seqte jo¹seqte
ヨセッテ ヨセッテ

F a cuidesa: omae hiq¹soqtejo, hiq¹soqtejoqcju:koto
熱いからさ お前 ヒソツテヨ ヒソツテヨっていうこと

siqterura
知ってるだろう

A a: hiq¹soqtejo soqte hisoqtejo acuizoqte
あゝ ヒソツテヨ ソツテ ヒソツテヨ アツイゾって

B hiq¹soqteqte so¹rewa¹ja hi¹sore hi¹sareqteju:kotoda
ヒソツテって それは ヒソレ(後ずさりせよ)ヒサレっていうことだ

G a: hiq¹sare
あゝ ヒッサレ

A so¹rewa¹ cigau¹dajo so¹rewa¹ hi¹sareqju:kotoda
それは 違うんだ それは ヒサレっていう事だ

Y sore¹ta: cigau¹da¹ne, sono hi¹sotowa mata cigau¹da¹ne
それとは 違うんだけれど その ヒソとは また 違うんだね

A sore¹ta: cigau¹ze:
それよりは ちがうぜ

G o:, urusa¹i a: hiq¹sare hiq¹sare oi ko:ju: jaca:
おゝ うるさい ヒッサレ ヒッサレ おい こういう やつは

cigau¹da¹na: korja:
違うんだよな これは

F hiq¹sore hiq¹soreqju: kota: arura hiq¹sore hiq¹sore
ヒソレ ヒソレっていう ことは あるだろう ヒソレ ヒッサレ

Y so¹rja:mata, be¹cuno kotoda¹ne
それは又 別の ことだね

G u:N korja: becuno ko⁷toqda korja: o⁷rega acu⁷ide
うんん これは 別の ことだ これは おれが 暑いから

o⁷i urusai hiqsare hiqsare ko:na: korja: cigauqda:
うるさい ヒッサレ ヒッサレ こうね これは 違うんだ

siq⁷so⁷qcju:jacu⁷wa
シッソっていうやつは

F ho:zjanai iroriga aqtesa: ano⁷na acu⁷kute ko:
そうじゃない いろいろが あってさ あの 熱くて こう

mo⁷jamojasiterura ko:ju:hu:ni ma: korega ano:
もやもやしているだろう こういう風に まあ これが あの

mojamojasiteiru ta⁷kibitositesa: soide ko:site iruto
もやもやしている たき火としてさ それで こうして いると

ac⁷ui acuiqte ko:ni ju:ra, sju:ino sju:ga, de,
熱い 熱いって このように いうだろう 周囲の 衆が で

hisoqtejo hiqsoqte⁷qcju:ko⁷to arusa, acu⁷ide
ヒソツテヨ(下がっていなさい)ヒソツテっていうこと あるさ、熱いから

B so⁷rewa, jo⁷kejoqte ju:ko⁷toqda
それは 除けなさいって いうことだ

A so⁷no kotobato
その ことばと

F so:ju:kotowa arura:
そういうことは あるだろう

A dakedo hisaruta: cigaujo
だけど ヒサルとは ちがうよ

G saqkino kotobato zeNzeNcigauzo sorja:, imiga
さっきの ことばと ぜんぜん違うぞ それは 意味が

2. 方言のこと (2)

話し手 A…… 森田 一 B…… 湯本泰弘 C…… 森辻広良
 D…… 森 好一 E…… 湯本哲男 F…… 湯本和男
 G…… 森下忠喜 Y…… 山口幸洋

解説 (1)につづいて、井川、檜尾、玉川、清沢などの方言の印象が話題になる。次いで大川村各地の代表的な話し手の評判を話しあう。

C naraohēNzja uq̣c̣jokuq̣te ju:dajo
 檜尾辺では ウッチョク(置く)っていうんだよ

A a: naraozja uq̣c̣jokuq̣teju: naraozja ika:demo juwa:
 あゝ 檜尾では ウッチョクっていう 檜尾では 井川でも いうよ

C sokoe uq̣c̣joiteke uq̣c̣joiteke uq̣c̣joiteke, ko:ju:koto:
 ソコエ ウッチョイテケ ウッチョイテケ ウッチョイテケ こういうことを
 ju: uq̣c̣joiteke
 いう ウッチョイテケ

A kokozja uwokuq̣te ju:dana
 ここでは ウウョクって いうんだな

C ika:e cikaiqdana: a: jaqparina
 井川へ 近いんだな あゝ やっぱりね

A do:mo ika:e, ika:e cikai
 どうも 井川へ 井川へ 近い

B daNdan mukoe ikisidai ika:e cikakunaq̣te
 だんだん むこうへ 行き次第 井川へ 近くなって

A so:dane mukoe o:kamo mukoe kitai ikisidai
 そうだね 向こうへ 大川も むこうへ 北へ 行き次第

- ika:i cikaku naqte
井川へ 近く なって
- B soidaga ano: sizo:ka tokaino kotobani narerunja:
だけど あの 静岡 都会の ことばに 慣れるには
- juzimaga iciban e:daqcjo:jo, juzimano kotobagana:
湯島が 一番 良いんだそうだ 湯島の ことばがね
- wariai narejasui
割合 慣れやすい
- F hjo:zjuNgode ikanja: sjoNnaizjaN
標準語で 行かなくては しょうがないじゃないか
- G ja: hoNtona: tamakawaatarja: taisitamondajo
本当に 玉川あたりは 大したもんだよ
(9)
- tamaka:wa ura:tokono imo:toga tamaka:e iqterudaga
玉川は 俺のところの 妹が 玉川へ 行ってるんだが
- ano kakizimae
あの 柿島へ(10)
- B akuseNtoqkara nanikara sizo:kano sonohjo:zjuNgoni
アクセントから 何から 静岡の その標準語(静岡の標準的方言)
- na rejasui
の意)に慣れやすい
- A namariga sukunaizura hoizja:
訛りが 少ないのだから それでは
- B so:zja: nja:daqkega naNteju: kotoba:hore
ソージャー キャードックが などという ことば(檜尾や井川の)は
- sizo:kai moqteqte nakanaka naosienaidade
それ静岡へ 持ってって なかなか 直せないんだから
- F asokono, tamaka:to kokono kotobato aNta maticigau
あそこの 玉川と ここの ことばと あんた 又違う
- G a: daganā: tamaka:no ano: jaqpa hajakuqkara sono
あゝ だけど 玉川の あの やっぱり 早くから その

naNcju:ka 「joidaqke na: ano: ima sizeNni sono nanio
何というか 良かったな あの 今 しぜんに その 何を

sitazjanakute
したんではなくて

F imano kotoba: ki:temjo: ima: , kikarene:ja warijai
今の ことばを 聞いてみな 今は 聞かれないよ わりあい

ijadana: anaNte
イヤダナーアなんて

A ika ka: ta maka: no atarika:
井川か? 玉川の あたりか?

F koNjadana: a naNcjuqteru na: a: naNcjuqte mo:
コンヤダナーア なんて云ってる ナーアなんて云って もう

A ta maka: atariga ho:
玉川あたりが ほう

G ho: dake: ga ne: o ko: ageruka agerujo: nana:
だけど ネーを こう あげるか あげるようだな

A ano kozimaataridemo na
あの 小島あたりでもね
(11)

G ho: da ho: da ho: da
そうだ そうだ そうだ

A so: dagane: e naNte kozimakara kagiana ikuto so: -
ソーダガネーエ なんて 小島から 鍵穴 (12) 行くと ソー

da gane: e ne: o
ダガネーエ ネーを

G ne: o ageruqda: na , keqkawa sono , to cino ho: geN ,
ネーを あげるんだな 結果は その 土地の 方言

ho: geN ga sokoe ko do: demo kara miaqterudana
方言が そこへ こう どうでも からみあってるんだな

A taisita moNdana:
大した もんだな

G ho:re koNda sono do:kaNe iqtara sakuta cuno arja:
 それ 今度は その トーカンへ (13) 行ったら 作辰の あれは

sugoizoi
 すごいぜ

A o:rano sono sugoidazo e nanTe orewa daiici
 オーラ(意味不明)の その すごいんだぜ なんて おれは だいいち

zeNzeN sono
 ぜんぜん その

B akuseNtodana
 アクセントだな

A so:dajo ano ko:tobano kono na:ja dadai cigawano:-
 そうだよ あの ことばの この ね だいたい 違わないん (14)

dakedo sono hacuoNga, zeNzeN cigaqtekuru
 だけれど その 発音が ぜんぜん 違ってくる

E mu'razina Nkamo cigawai, mu'razi
 村治なんかも 違うよ 村治

G do:kaNno jaro: horja: gotano seNse:daqcjo
 トーカン(作辰のこと)の野郎 それは ざれ口の 先生だそうだ

B kamijuzimaqzja: tadani:ga hjo:zjuNdaqzurana: ho:geNno:
 上湯島では 忠兄が (15) 標準的方言の話手だろうな 方言の

D tonikaku seNse:da tadani:ga
 とにかく 先生だ 忠兄が

B se:ni:wa are naraono deno sitodamoNde
 清兄は あれ 檜尾の 出の 人だから

A se:ni:wa are cukauzo naraokotoba:
 清兄は あれ 使うぞ 檜尾ことばを

B dade mazu kamijuzimano hjo:zjuNgowa tadani:ga
 だから まず 上湯島の 標準的話し手は 忠兄が

icibaN hjo:zjuNgoguraizura:jo
 一番 標準ぐらいだろう

- G so¹Na¹ko¹ta: na¹igana¹, keqka ore¹mo ho¹re¹ gu¹Ntai-
 そんなことは ないがね 結局 俺も それ 軍隊
- se¹:kacuo hicine¹NkaN iqtekitadamo¹Ndaisa: do:site¹mo¹
 生活を 七年間 行って来たのでね どうしても
- to¹nikaku gu¹Ntaigo¹: cukau cui ko:, ci:to ki¹Ncjo:-
 とにかく 軍隊語を 使う つい こう、 少し 緊張
- sirja: gu¹Ntaigo¹: cuka¹udamo¹Ndade ze¹q¹tai dam¹enada
 すれば 軍隊語を 使うんだから ぜったい 駄目なのだ
- D ke¹NcjaNci: ozi:sa¹Nwaja
 健ちゃん達の おじいさんは?
- F ija so:iqte¹rukaranja: ze¹Nbu ho¹:dadeja:
 いや そういってるうちに それが全部 そうなんだからね
- G (笑) ho:ka so:iqte¹ru sono kotobaga ze¹Nbu ho:ge¹Nka
 そうか そういってる その ことばが ぜんぶ 方言か
- B simoju¹zimaqzja: hiciza no icini:atariga¹
 下湯島では 七左衛門さん の 市兄あたりが
- hjo:zju¹Nzurana
 代表的だろうな
- A wariai ano: tocino kotoba: cukau arewa dokoi
 わりあい あの 土地の ことばを 使う あれば どこへ
- iqte¹mo kae:naiwa¹
 行っても(ことばを)変えることができないよ
- B kae:nai
 変え得ない
- Y anositomo kae¹Nne: ano zicuni:qteju: daikusane:
 あの人も 変えないね あの 実兄という 大工ね
- A a:, zicudaika:
 あゝ 実大か
- B do:daroka zicudai
 どうだろうか 実大(実雄大工のこと)

D arja: kuzureno: no dedade
あれは 崩野の 出だから

A arja, kuzureno: de nakenja: arja: demeqda: ja
あれは 崩野で なければ あれは 駄目だよ

D kuzureno: no kotobadade
崩野の ことばだから

A kuzureno: de juzimanobeNwa cukawanaijona
崩野で 湯島のことばは 使わないよな

3. 方言のこと (3)

話し手 A…… 森田 一 B…… 湯本泰弘 C…… 森辻広良
 D…… 森 好一 E…… 湯本哲男 F…… 湯本和男
 G…… 森下忠喜 Y…… 山口幸洋

解 説 (1)、(2)につづいて方言のことが話題になる。大川村日向で晩のあいさつを、ユンベツタというとか、湯島でいうジジクボ(ありじごく)が、崩野の人から何のことかと聞かれたなどという話をしあう。

A o¹miq¹te ju:ze:
 オミ¹って 云うぜ
 (16)

G a: sorja: sakanokami o¹miq¹cju: jaca:
 あゝ それは 坂ノ上 オミ¹っている やつは

F are cukau o¹miq¹cju:kotowa
 あれ 使う オミ¹っていることは

A do:darou: o¹miqtju:koto: sakanokamide cukau
 どうだろう オミ¹っていることを 坂ノ上で 使う

G o: sakanokami
 おゝ 坂ノ上

D kijoza:zja cukawana¹ikeN¹na:
 清沢(旧清沢村)では 使わないけどな

G uN sorja o¹mi, u:N sorja sakanokamiqda
 うん それは オミ, うゝん そりや 坂ノ上だ

C na:, na:ho:zura¹qtju:koto: na¹iqte ju:zjanaika
 な, ナーホーズラ(ね、そうだろう)ということ を ナイ¹っている

B uN ho:da ho:da
うん そうだ そうだ

A so:danē: ne: ne: ne:
ソーダネー ネー ネー ネー

C naiqcjuqtari ne:qcjuqtari
ナイっ云ったり ネーっていったり

Y jaqparine: ikawademo omiqte
やっぱりね 井川でも オミって

G so:danē:omi, omiqcju: jaca: sakanokamiqda
ソーダネーオミ オミっていうのは 坂ノ上だ

D sakanokamizja wareqte, warenaNcja: ju:dena,
坂ノ上では ワレ(お前)ってワレなんて いうからね
(17)

na:kazuni:, warenaNcja:
ナー和兄 ワレなんて

C wareqcja: ju:na:
ワレなんて云うことは 云うね

F ware, omja'wanaNte, bakajaro: sjarakusaito
ワレ オミャーワなどと バカヤロー 生きだど

puqsarauzo konojaro:qtena:
ぶんぐるぞ この野郎ってね

B hinatazja: juNbesitaqcju:daqcjo:jo juNbesita do:mo
日向では ユンベシタっていうんだそうだよ ユンベシタ ドーモ
(18)

juNbesita jōjanbaidesitaqtju:koto: do:mo juNbesita
ユンベシタ ヨヤンバイデシタ(良い案配でした)っていうことをドーモユンベシタ

F dokode?
どこで

B hinatawa so:ju:, mjo:na kotobadagejo:jo, do:mo
日向は そういう 妙な ことばだそうだ ドーモ

joaNbe:desitaqte aNbaidesitaqte ju:daina:
ヨアンベーデシタって アンバイデシタって(ここらでは)云うんだよな

- G a: a joaNbe:desitaqcju:koto: sono:
あゝ ヨアンペーデシタっていうことを その
- B juNbesitaqcju:jo:ni kikoerudaina, do:mo juNbesita
ユンベシタっていうように 聞こえるんだな ドーモ ユンベシタ
- G a: jaNbe:desita
あゝ ヤンペーデシタ
- F geNgosjo:gaino waruisito
言語障害の わるい人
- B ija ho:qzjanaijo, hucu:nositodemo ju:jo
いや そうじゃないよ ふつうの人でも いうよ
- G a: sorja so:, tasika ho:dakamo sirano:
あゝ それは そう, たしか そうかも しれない
- C ototoisitajaco: juNbesita (笑)
おとといしたやつを ユンベシタ
- B otocuisitaqtemo do:mo juNbesita
おとといしたっても ドーモ ユンベシタ
- F so:rja:
それは
- B jaNbaidesitaqte
ヤンバイデシタって
- G jaNbe:desitaqcju: jacu juNbe:sitaqcju:jo: jaNbe:sita
ヤンペーデシタっていう やつ ユンペーシタっていうよ ヤンペーシタ
- B do:mo jaNbaidesitaqte ju:qdagana: arja: daga sorjo:
ドーモ ヤンバイデシタって いうんだがな あれは, だが それを
- hajagucini ju:moNdai do:mo juNbesitaqte ju:daina:
早口に いうので ドーモ ユンベシタって いうんだよな
- A murazja: to:rano:jo
村では 通らないよ
- B ju:jo, hinatawa
いうよ 日向は

G ho:dakamo sirano:jo, hora jaNbe:desitaqte ju:guaino-
そうかも 知れないよ ほら ヤンペーデンタって いうぐあいの

jaco: ko: ci:qto ko: cigaudakida:ja
やつを こう 少し こう 違うだけだよ

D hinataatarizja aredana: naNcju:ka ni:raqcja: ju:dana:
日向あたりでは あれだな 何というか ニーラとか いうんだな

jokuwa
よく

E tokusjuna sju:rada ni:qcju:na:
特殊な 衆らだ ニーってというのは

D omaeqcja:cju:daka naNcju:da
オマエッチャというのか 何というか

G o:rja: sono, zicudaiwa sorja: zicudaiwa juzimano
俺は その 実大は それは 実大は(私に対して、お前は)湯島の

sjuqsiNdaga ta:ni:wa sore zizikuboqcju:koto: sirano:
出身だから 忠兄は それ ジジクボっていうことを 知らない

siqteirukacju:de
知っているかというよ

A zizikubo:
ジジクボ

G zizikubono kotomo sirano:zeqte juqtara ho:ka oremo
ジジクボの ことも 知らないぜって 云ったら そうか 俺も

kaqka:deNni hidoimeni aqtaqdaga
かみさんに ひどい目にあっただのか

A o: hinatade
おゝ 日向で

B kokuirade mukasiwa aredaina
こちらで 昔は あれだよな

A zizikubotju:nowa ano: ano: naNzura arja:
ジジクボってというのは あの あの 何だろう あれは

G ko¹ko¹wa , kodomode ju:to ho:ziqko ho:ziqko
こは(後不明), 子供でいと ホージッコ ホージッコ

A ho:ziqko¹q¹cju:dai , arja: , ziko naN¹cju:q¹dai
ホージッコっていうよ あれは ジコ 何というか

aizumu¹sino koto: naN¹teN¹dai arja:
アイズムシの ことを 何といってるんだろう あれは

A arja:na
あれはな

B zigoku
ジゴク

A zigokunaN¹toka
ジゴクなんとか

B naN¹tokaq¹cju:dana: , arizigoku
何とかっていうだな アリジゴク

A arizigokunokoto: ju:N¹dai
アリジゴクのことを 云うんだよ

B arizigokuno kotowo zizikubo
アリジゴクの ことを ジジクボ

A zizikubo
ジジクボ

B zizikubo zizikubo , arja zizikuboga maniaqta
ジジクボ ジジクボ あれは ジジクボが 間にあった

G zizikubomadega hoizja: naN¹dana , arega to:qteiruna ,
ジジクボまでが それでは 何だろう あれが 通っているな

arega to:qteira zizikuboga to:qte:ruda , ho:ziqk¹onaN¹te
あれが 通っているよ ジジクボが 通っているんだ ホージッコなんて

kokorade ju:N¹daga , ho:ziqk¹onaN¹taqte naniga to:qte
こころで 云うけれど ホージッコなでと云っても 何が 通って

iko:ka , daitai zio kaku
行こうか だいたい 字を 書く

C ko:domono hoNnja: zizikuboqte deteitaqkejo
子供の 本には ジジクボって 出ていたよ

A ho:zura zizikuboga hoNto:da
そうだろう ジジクボが 本当だ

G do:mo zizikuboga hoNto:dana:
どうも ジジクボが 本当だな

B hoNto:wa arizigokuqda:na
本当は アリジゴクだな

C arizigokuga tasikaqda:na
アリジゴクが 確かだな

A arizigokuga arja: gakume:de , gakume:deaqte soreo
アリジゴクが あれば 学名で 学名であって それを

kokoiraqzja: ano: ho:ziqkodade <しばらく がやがやする>
ここでは あの ホージッコだから

G so:redade keqka kokoraheNno kotobawa ma: zinimo
それだから 結局 ころら辺の ことばは まあ 字にも

nanimo naqcja:ino:
名にも なってはいない

D kazuni: ano: aredaqcjo:ze, nihoNno sono mamusiqcju:-
和兄 あの あれだそうだよ 日本の その 「まむし」って

jacuna: are zju:hacibaNdaka zju:kju:baNni hairudaq-
いう奴な あれ 十八番目が 十九番に 入るんだ

ojo:na:
そうだなあ

B zizikubowa cikaida
ジジクボ(名と意味が)近い

A soide kazuni:wa , kazuni: , kazuni:wa sitatakaqteju:
それで 和兄は, 和兄, 和兄は シタタカっていう

kotoba: ki:takota: arjaheNkai
ことばを 聞いたことが ありはしないか

F sitaka¹qte:
したかって?

G sitataka
シタタカ

F simasita (笑)
「しました」か

A so:ju: imizja: naijo
そういう 意味では ないよ

F so:ju: imizja¹na , mukasino sju:ga juqtadajo ,
そういう 意味じゃないか 昔の 衆が 云ったんだよ

koko¹irademo sitataka¹q¹ju:na: so:ju: imizjana¹jo
こちらでも シタタカって言うのは そういう 意味じゃないよ

B sitataka¹q¹ju:na takusa¹no¹ju: imida
シタタカって言うのは 沢山という 意味だ

A ho:dajo
そうだよ

B sitaga takai¹qde na: kogona¹Nka haiq¹teruna: sitaga
下が 高いから なあ かごなんか 入っているの 下が

takai¹de sitataka¹
高いから シタタカ

G ta¹Nto mo¹qte ki¹taqte ju: imida
沢山 持って 来たって いう 意味だ

B sitataka moqte¹kitana¹qte ju:koto:ju:da
シタタカ 持って来たのだと いう事をいうだ

F a: sorja: siranaka¹qta , (19) koko¹zja: ta¹Nto cukawanai¹na¹
あ それは 知らなかった ここでは 沢山 使わないな

hoidake¹
だけど

B ima: cuka:naku naqta¹jo , ima: cuka:nakunaqtaga
今は 使わなく なったよ 今は 使わなくなったが

- mukas¹iwa cukaqtadain¹a
昔は 使ったんだよ
- A sitat¹taka moqt¹ekitana:teju:jo:na koto¹wa cukaqtaras¹i:-
シタタカ モッテキタナーっていうような ことは 使ったらしいんだ
- Nda
- B cukaqt¹tajo
使ったよ
- A ima: cuka:nakuna¹qta
今は 使わなくなった
- F a: so:ka sitat¹taka toqte kitaka¹qcju:koto¹ka
あゝ そうか シタタカ 取って 来たかっっていうことか
- B rikizi:ga joku cuka¹ura
リキ爺が よく 使うだろう
- A u:N sitat¹taka aqtatokana:¹
うん シタタカ アッタとかな
- B so:so:
そうそう
- F toqtekitaka¹qcju: kotoka¹
取って来たかっっていう ことか
- A takusa¹N aqta¹qte ju:koto:¹
たくさん あったって いうことを
- B ima¹wa cukawanaigana:¹, so¹rega ho:ge¹Nnja:¹ ho:ge¹Ndaina¹
今は 使わないがね それが 方言には 方言だよ
- F so:ju: ho:ge¹Nwa naiwa
そういう 方言は ないよ
- B ima¹wa nai¹jo
今は ないよ
- G ima:¹ cuka:no:na, ima:¹ cuka:nai
今は 使わないな、今は 使わない

- K ho:ge¹ Nqojuko¹ towa , uqzamasikuq¹ju:na ,
方言ということは, ウッザマシクっていな
- G suq¹goi moNdana¹:
すごい もんだなあ
- F sugoi¹ moNdana¹: konojaro¹: ba:kamitaina¹ gjo:saN¹
すごい もんだなあ この野郎 はかみたいな 仰山
- kijagaqtana¹: uzamasiku¹ naNtena¹:
きやがったなあ ウザマシクなんてなあ
- B gjo:saN¹teju: kotobawa korja: ara:na¹
仰山という ことばは これは あるさ
- A gjo:saN¹oju: kotoba¹wa daitai¹
仰山という ことばは だいたい
- F uqzamasikuq¹te ju:koto¹ka
ウッザマシクって いうことか
- A kokozja¹ taNtonokoto: uqzamasikuq¹te ju:dajo¹
ここでは タント(沢山)のことを ウッザマシクっていうのだ
- G hoidaN¹ uqzamasikuq¹ju: kota: naina¹ konoheNdana¹
だけど ウッザマシクっていう ことは(他には)ないね この辺だな
- A takusaN¹ aruq¹te ju:koto¹: uqzamasikuq¹te
たくさん あるって いうことを ウッザマシクって
- F koNnamono¹ sjo:gana:wa¹ naNtena¹: sjo:ganaicju:kotowa¹
こんなもの しょうがないわ なんてな しょうがないっていうことは
- Y soremo¹ ju:ne: zeNkoku¹
それも いうね ぜんこくで
- E sjo:gana¹iwa¹ ju:jo¹
ショーガナイワは いうよ
- F koNnamono¹ kakeqcura¹ kaite sjo:gane:watena¹:
こんなもの カケツツラカイト(不明) しょうがないわ, てな
- B koNnamono¹ , uqzamasikute¹ …… sjo:gana¹ teNda¹jo¹
こんなもの ウッザマシクテ しょうがないてんだよ

F a: ho:ka ho:ka waruijo
あゝ そうか そうか 悪いな

B so:ju:dajo
そういうだよ

D te:se:kai kazuni:
訂正かい かず兄

F te:se: sinakerjo
訂正 しなけりや

B koNnamo no uqzamasikute do:siruja waira:qte
こんなもの ウッサマシクテ ドーシルヤ(どうする) ワイラー(お前達)

ju:dena:
っていうからな

F do:site kurauka do:sirukoqdaka:
どうして やろうか どうすることだろう

A o ra do:sirukoqdakaqte ju:dana:
俺 どうすることかっていう 云うんだな

4. 方言のこと (4)

話し手 A……森田 一 B……湯本 泰弘 C……森辻 広良
 D……森 好一 E……湯本 哲男 F……湯本 和男
 G……森下 忠喜 Y……山口 幸洋

解 説：方言の話題がつづく。私（山口）がイッケ（行った）や、ギラ（この地方方言の文アクセントを指す名称）について聞く。次いで、ウトマシー（いやらしい）、ウナゴージ（うじ）、ガブラドー（大みみず）などのことが、方言をきっかけにして話題にのぼる。

Y sorekara joku iqketokane, minasan aqci: iqketoka
 それから よく イッケとかね みなさん あっちへ イッケとか

so:ju: i:katamo daNdan sukenaku naqte kita
 そういう いいかたも だんだん 少なく なって 来た

B iqkeqteju: kokorade iqkja:qte ju:qda
 イッケっていう ところで イッキャーって いうんだ

F mukasja:na:
 昔はな

A so:da aqci: iqkea aqci: iqkegana:
 そうだ あっちへ イッケア あっちへ イッケガナー

B iqkja:ja:
 イッキャーヤー

D iqkja:qte ju:ze
 イッキャーって いうぜ

B iqkegana:tomo juweba
 イッケガナーとも 云えば

- A aqci: iqte inakunaqtade iqkja:
あっちへ 行って いなくなったから イッキャー(行った)
- B aqci: iqkja:ja
あっちへ イッキャーヤ
- G mada maca: doqkai iqcimaqcja: kana:no:zo:
まだ まつは どこかへ 行っちゃっては 敵わないよ
- A ho:da ho:da zu:qto iqte simaqtakoto: iqkja:ja
そうだ そうだ ずうっと 行って しまったことを イッキャーヤ
- A iqkiqte ju:kotowa asokoe ikukotoo iqki
イッキって いうことは あそこへ 行くことを イッキ(行った)
- B iqkigana:qte koju:dana:
イッキガナーって こういうんだよ
- A ika:jaka ika:ja
イカーヤか イカーヤ
- F ika:jacju:wa ika:ja:
イカーヤというのは イカーヤー
- C aqci: iqkja:ja uNqte heNzio sinja naNdade
アッチー イッキャーヤ うんって 返事を しなくてはいけないから
- A aqci: iqke uN?, aqcio mjo:ja
アッチー イッケ うん? アッチオ ミロー(見よ)ヤ
- B mjo:ja
ミヨーヤ
- A mjo:, iqka:, ikuzjane:ka, mjo:ja, mitemjo:
ミヨー イッカー イクジャーネーカ, ミヨーヤ, ミテミヨー
- muko: ikuzjane:ka naNte ju:dagana:
ムコー イクツジャーネーカ などと いうんだがね
- Y asokono ozi:sanwa mukasja: joku sakeo noNgejoqte
あそこの おじいさんは 昔は よく 酒を ノンゲ(飲んだ)よって
- ju: hu:ni
いう ように

A noNgeqte ju: kotoba: cukauna, aica: sakenomija⁽²⁰⁾
 ノンゲって いう ことばを 使うな あいつは 酒飲みさ

noqgja:ja, noqgja:ja, noqgja:
 ノッギャーヤ ノッギャーヤ ノッギャー

G a: noNgeqcja: iwano:na
 あゝ ノンゲとは いわないね

A noNgeta: iwaNna, anojaro:, sakenomu noqgja:,
 ノンゲとは 云わないね, あの野郎 酒飲む ノッギャー

joikaN nomusa: naNcjuqte ju:na
 いいかげん 飲むよ などといて いうな

B noqgja: cuqtaq dana, kokoraqzja:
 ノッギャーっていったんだろう ここらでは

G kja:ruga nakuNte amezurajono sonokja:runo sono
 キャールが ナクンテ アメズラヨの (21) そのキャールの その

nanio noqgja:o noqgja:o ju:na
 何を ノッギャーを ノッギャーを いうな

B kja:ronaNte juwanaina, gaeroqcju:dade
 キャーロなんて 云わないね ガエロっていうんだから

Y kokoraheNno koto: simonoho:zja: giraqte ju:kedo,
 ここら辺の ことを 下流の方では ギラって いうけど

a:re naNdato omo:
 あれ 何だと思う?

B girakotobaqte ju:dade
 ギラことばって いうんだから

Y arja:, naNde giraqte ju:daine:
 あれは なぜ ギラって いうんだらう

D naNno tameni giraqte ju:da
 何の 為に ギラって いうのだ (全文平板調のアクセントで)

B girakoto girakotobaqte jokuju:dana: huNto gira:
 ギラコト ギラコトばって よくいうんだね 本当 ギラを

cukaqteqte ju:kotowa
使ってと いうこと

C macino ho:no sju: kikeba ano: cjoqto heNzura
町の 方の 衆は 聞けば あの ちょっと 変だろう

B huNdaNsa sorja: wakarudajo sorjo: giraqte
だけど それは わかるんだよ それを ギラって

ju:dagana sono giratoju: imi
いうんだがな その ギラという 意味

C murini cukaqteruqcju: kotodajo
わりに 使ってるっていう ことだよ

B muriniqcju:jorimo
わりについていうよりも

C ho:geNo cukaqcja: ino:dade
方言を 使っては いないのだから

E ho:geNo cukauqte, ho:geNo cukaqtaqte, giraqcja:
方言を 使うって 方言を 使ったって ギラと

iwanaiwakeqda
いわないわけだ(いわなくてもよいではないか)

C simono kotobade cukaqtemite umaku ikanai
下の(下流域の)ことばで..... 使ってみても うまく いかない

wakeda nicizjo: cukaqte inaimoNdade soreo giraqte
わけだ 日常 使って いないので それを ギラと

ju:dajo
いうのだ

G keqka: utagau sita, gira, giranogiwa utagau,
結局 疑う 舌 ギラ ギラのギは 疑う

utagauqdana, utagaudana:, u:N rawa gira, u:N
疑うだな 疑うだな うん ラは ギラ うん

matejo, masaka sitao cukauqde naizurade
待てよ まさか 舌を 使うのでは ないのだから

B sita, sitaqte sizo:kazja: sitao dasite goraNqte
舌 舌って 静岡市では 舌を 出して ざらんって

ju:da:na, kokorazja: bero: daseqcju:dana
云うんだな, ここでは ベロー ダセっていうんだな

B sitabero, sitabero: daite mjo:ja:
シタベロ シタベロー ダイテ ミヨヤー(出して見よ)

A sitabero: dase:
シタベロー ダセー

G sitaberaqtemo joidazo
シタベラといっても 良いんだぞ

C sitaberaqcju:wa hjo:zjuNgodažo, sitadakedemo joižo
シタベラというのは 標準語だぞ シタだけでも 良いぞ

F bero: dase, bero:
ベロー ダセ ベロー

G bero: daite mjo:ja:
ベロー ダイテ ミヨヤー

B kokorazja beroqcju:dazo, bero: daiteikja:
ここでは ベロっていうんだぞ ベロー ダイテイキャー

C sitaberaqtju:wa hjo:zjuNgoda
シタベラっていうのは 標準語だ

B beroqcju:na: hai
ベロっていうのは もう

G sitaberaqcja iwano:da
シタベラとは いわない

F sitaberaqte iwano:kamo sireno:na, bero: dase
シタベラって 云わないかも しれないね ベロー ダセ

G a: bero: dase
アー ベロー ダセ

F mo: iqkai dasite (笑)
もう 一回 出して

- B sita, arja: sitaga hoNto:zura
 シタ あれは シタが 本当だろう
- G arja: sitaga hoNto:sa, sitaga hoNto:dajo
 あれは シタが 本当さ シタが 本当だよ
- B sitao dasite goraNnaNte joku juwa:
 (静岡市の病院などへ行くと)舌を出してごらんなどとよく云うよ
- F sitao dasite goraNnaNte
 「舌を 出して ごらん」なんて
- A daredakaN isjai igtesa: ano: kazedaka hi:tena:
 誰だかが 医者へ 行ってさ あの カゼだか 引いてな
- sitao dasite goraNtara (笑)
 シタを 出して ごらんって云ったら
- F ere: otomasi: (笑)
 たいへんお気の毒!
- A sitano ho: daitacuqkja: (笑)
 下の 方を 出したって云った
- G a:a sono otomasi: cju:kota: ju: hoidaga kono
 あゝ その オトマシーっていうことは いう けれど この
- A otomasi: ere:
 かわいそうに !
- G cukawano:ku naqtana sono otomasi:qcju kotoba:
 使わなく なったね その オトマシーっていう ことばを
- cukawano:ku naqtana:
 使わなく なったね
- A otomasi:qcju: kotoba: cukawanaina:
 オトマシーっていう ことばは 使わないね
- B horja: kowaijo
 それは 怖いよ
- A otomasi:qcju: kotoba cukawanaina:
 オトマシーっていう ことば 使わないな

G cuka: no: ku naqtena:
使わなく なったね

B otomasi: wa cukausa
オトマシーは 使いさ

G taNto cukawanaida
たくさんは使わないな

B cukaujo, cukauze korja:, anosito nakunaqtaqjo:
使うよ 使うぜ これは、 あの人の なくなったそうだ

otomasi: qkena: tjuwa:
オトマシーケ(かわいそうだった)な、というよ

A ju: jo, sorja ju: jo
云うよ それは 云うよ

F a: rja: kinodokunaqke otomasi:
あれは 気の毒だった オトマシー

C utomasi: to otomasi: de mata cigauda uto oqdena:
ウトマシーと オトマシーで また ちがうのだ ウと オでね

A utomasi: wa mata cigauda, utomasi: qcju: na: hai
ウトマシーは また ちがうのだ ウトマシーっていうのは もう

kitanaijo: na kotobaqda: na
汚ないような ことばだな

C otomasi: qcju: wa kinodokudaqkeqte ju: jo: na
オトマシーっていうのは 気の毒だったって いうような

A kinodokunaqteju: zjo: o karameta
気の毒だっていう 情を からめた

C utomasi: qcju: wa naNcju: ka
ウトマシーっていうのは 何というか

G kitanaiqcju: ka
汚ないというか

B otomasi: qcju: na:
オトマシーっていうのは

C kitanaibaqkazja nakute
汚ないばかりじゃ なくて

A cukaijo:ga arudana, uto otodena:
使いようが あるんだな ウと オとでな

G o: uto ode
お、 ウと オで

F unago:ziwa (笑)
ウナゴージはどうだ

B namekuzino kotozjanaika unago:ziwa
なめくじの ことじゃないか ウナゴージは

F cigausa
違うさ

A namekuzito unago:ziwa cigauNdaze
なめくじと ウナゴージは 違うんだぜ

F are, zeNzeN cigauqdana
あれ ぜんぜん 違うんだな

B oNnaziqzura
同じだろ

G cigau cigau zeNzeN cigau
ちがう ちがう ぜんぜん ちがう

A namekuzito unago:ziwa zeNzeN cigauNa, ano unago:-
なめくじと ウナゴージは ぜんぜん ちがうな あの ウナゴ-

ziqju:na: ano: huNkara detekuruja:co: unago:ziqju:
ジというのは あの ふんから 出てくるやつを ウナゴージっていう

namekuzi⁽²²⁾ ju:nowa ko: namenamesita
ナメクジと いうのは こう なめなめしたー

G namenamesita koNna gosuNmo rokusuNmo arujo:na
なめなめした こんな 五寸も 六寸も あるような

B unago:ziwa beNzjoni irujacuda
ウナゴージは 便所に いるやつだ

A 「uN soreo unago:ziqcu:Nda
うん それを ウナゴージっていうのだ

F o: oqporakasidawaija
おゝ オッポラカンだよ(意味不鮮明)

D soizja: uziqcu:jacuwa
それでは うじっていうやつは?

F uziwa uzisa
うじは うじさ

A uziwa moto ano nameko:ziqcu:Ndaga kore naNjara
うじは もの あの ナメゴージっていうんだが これ 何やら

ano:
あの

G ija, unago:zito uzitowa mata cigauqdajo uziqcu:
いや ウナゴージと ウジとは また ちがうんだよ ウジっていう

jacuwana: mata komaqkai siroi:jacuga guzjaguzjaguzja-
やつはね また 細かい 白いやつが グジャグジャグジャ

guzjaguzjaguzjaguzjaguzja oru, wakuda.
グジャグジャグジャグジャ 居る, 湧くよ

Y unago:zito uzito iqsjozura iqsjozja:naika (笑)
ウナゴージと ウジと 同じだろう 一緒ではないか

B iqsjodajo:
一緒だよ

A onazimoNdakedomo
同じ物だけれど

G se:sicuwa onnazidakedona: se:sicuwa onazidaga
性質は 同じだけどな 性質は 同じだが

taisicuwa cigau, zenzen cigau
体質は 違う ぜんぜん 違う

B jatara guzjaguzja ci:sai musio mirja: uziqcu:dana:
何でも グジャグジャ 小さい 虫を 見れば ウジっていうんだな

A unago:ziqoju:jaca: , unago:ziqoju:na: beNzjoni
ウナゴージっているやつは ウナゴージっているのは 便所に

irujacuno miwo
いるやつのみを

G arewana: otamazjakusiwomitaini oqpoqa aqtesa
あれはな お玉杓子みたいに 尾が あってさ

B siqpoqa arujacuwo
しっぽが あるやつを

F unago:zi
ウナゴージ

G unago:zi , sorekara uziqoju: jaca:na: uziqoju:
ウナゴージ それから ウジっている やつはな ウジっている

jaca: zeNzeN siqpo mo naNnimo nai jacuga guzjaguzja
やつは ぜんぜん しっぽも 何にも ない やつが ぐじやぐじや

guzjaguzja sorekara saruuziqoju: jacugana:
ぐじやぐじや それから サルウジっている やつがな

saruuziqoju: jacuwo mitakotoga aruka do:daka sira-
サルウジっている やつを 見たことが あるか どうか 知ら

no:gana: saruuziqoju: jacuwa marukiri kuoi jacuno
ないがな サルウジっている やつは ぜんぜん 黒い やつの

ko: ariNdo:no kumaarino , aredazo , arega monosugoi~
こう 蟻の クマアリの あれだぞ, あれが ものすごい~

B akebiwo muite , sonokarawo hokaitokuto dekiruqoju:-
朱実を むいて その空を 放っておくと 出来るそう

wana:
だな

G a: juqtana:
あゝ そう云ったね

F ika:no ho:de , memezuno o:ki:jaco:
井川の 方で みみずの 大きいやつを

「kaburado:qcjuwano:kai
カブラドーっていわないか

Y 「ki:takoto arune:
聞いたこと あるね

B 「kaburado:qte ju:tokomo arudana:
カブラドーって いうところも あるだなあ

F 「kaburado: kaburado:qte ju:da
カブラドー カブラドーって いうのだ

B 「kaburado:qtju: kokorazja: gaburado:qtju:daina
(井川では)カブラドーっていう, ここでは ガブラドーっていうんだな

F 「ga:o cukrudana
ガーを つけるんだな

A 「kato gano
カと ガの

F 「memezuno o:ki:jacu
みみずの 大きいやつ

Y 「misakubono ho:zja gaburado:ziqte juqtane:
水窪の (23) 方では ガブラドージって 云ったね

F 「gaburado:zi
ガブラドージ

Y 「ziga cuitane:
ジガ ついたね

A 「gaburado:dana: kokorazja
ガブラドーだな ところでは

F 「gaburado:cju:na: asita unagio curudai (笑) soide
ガブラドーっていうな(これがとれれば)明日うなぎを 釣るのだ それで

unagiwona ko: cigiqtesa sasitesa soide unagiotorusa
うなぎをな こう ちぎってさ さしてさ それで ウナギを取るよ

gaburado:de
ガブラドーで

5. 墓場の話など

話し手 A …… 森田 一 B …… 湯本 泰弘 C …… 森辻 広良
 D …… 森 好一 E …… 湯本 哲男 F …… 湯本 和男
 G …… 森下 忠喜 Y …… 山口 幸洋

解説 A 氏の茶畑から宝暦年間の墓が発見された話にはじまって、檜尾
 など高地では土葬が深い。深いのは、テンに掘り返されて死体が
 食い荒されるからだというような話をする。

A sorja: taisita moNda]jo, oraNucino ano kawaino
 それは 大した ものだよ 俺の家の あの 川井の

kuNdana: cjabotakeno ano: hore ko:ju: akacucino,
 くんだな (不明) 茶畑の あの ほれ こういう 赤土の

haka: aqtaqkeda]jo, soidamoNde sono torinokete
 墓が あったんだよ だから その 取徐けて

moraqte cucio hakabaga aqtamoNdena: hakabaga aruke:
 貰って 土を 墓場が あったのでな 墓場が あるから

e:kaqcjuqte ja:daja:daqte jamec]aqta]tais]jo:raga
 良いかって言って いやだいやだって やめちゃった 大将らが

soide koNda ano jo:me:zini kite joNde]moraq]tarana:
 それで 今度 あの 陽明寺に 来て 読んで 貰ったらな

ho:]reki nanneNqte ho:]rekiqt]ju:tona, ima]kara nih]jaku,
 宝暦 なんねんって 宝暦っていうことな 今から 二百

goz]ju:]neNgurai mukasidaqc]jo:]ja,]so:]surutona:
 五十年ぐらい 昔だろうだよ そうするとね

C]kaNe:]tu:]ho:]no zida]izura
 通永通宝の 時代だろう

A so:ʃurutoŋa, aide: kawaiatari imaqkara kono
そうすると、あれで 川井あたり 今から この

saNbjakuneN
三百年

F dokorahenni aqtaqkeja:
どこらへんに? あった?

A sonokawa: deNcju:no
その川を 電柱の

F uenika ueni:
上にか 上に!?

A deNcju:Ntokoni
電柱のところに

B sorja: so:qzurajo
それは そのだろうよ

A saNbjakuneNizjo:ni, rekisigadazo kawaraqte soide
三百年ぐらい 歴史がだぞ それで

osoraku kokodaqtemo
おそらく ここだっても

B kokoira daitai nanahjakuneNdajo
ここらは だいたい 七百年位だよ

F na: hazimesaN sakasitae ko: kitesa: joqte mijoja,
な はじめさん 坂下へ こう 来てさ 寄って みよや

asukonTokonina, kokoni koNna saqtajo:na niNgeNga
あそこの所には ここに こんな 坐ったような 人間が

haiqteruda hitori
入っているのだ 一人

Y dokoni
どこに

F ima: mo: micio cubuicjaqtesa: mo: kaitaisite,
今は もう 道を つぶいちゃってさ もう 解体して

sorekoso honewo hiroqtēsa sjoNnaimoqde, honeo
それこそ 骨を 拾ってさ しかたがないので 骨を

hiroqte
拾って

B hone?
骨?

F osamete arukeNha: ma: ko:ju: kaqko:Nnaqtēsa:
納めて あるけどな まあ こういふ 恰好に なってさ

ko:ju:ano
こういふあの

F itamade wakaru itamade
板まで わかる (棺桶の) 板まで

B cjaNto siteru:
ちゃんと してるの

F cjaNta sicja: ino: cjaNta:sicja: inaidaqkeN, korega
ちゃんとは しては いない ちゃんとはしては いないのだけど これが

itaqde:, korewa: gaNokede:, jaqtamoNdato ko:ju:
板で これは 棺桶で やったもんだと こういふ

suite:site:
推定をして

A areno: atarasi:dajo arja:, aria: kowaidaqke mata
あれの あたらしいんだよ あれは あれは 恐かった また

B sorja: atarasi:jo: sono: hakomade wakarunaNcja:
それは 新しいよ その 箱まで わかるなどと

A arewa ano: sorekoso me:zika
あれは あの それこそ 明治か

F so:ju:a are hitocu aqtaqke, hitocu
そういふ あれ ひとつ あったっけ, ひとつ

A taisita moNda:jo
大した もんだよ

- A arejori mada huruijo, are ano oraNucino
あれより まだ 古いよ あれ あの 俺の家の
- cjabatakenowa ho:reki ho:rekigaNnen tokaqte neNgo:ga
茶畑のは 宝歴 宝歴元年 とかって 年号が
- hiroqtara daitai nihjaku gozju:neNguraimaedaqte, sono
拾ったら だいたい 二百 五十年ぐらい前だって その
- hakaN aqtadakedona: sorekoso sorekoso kuruto,
墓が あっただけだな それこそ それこそ 来ると
- kawaiatarja: madamada huruiqcju:dazo
川井あたりは まだまだ 古いていうんだぞ
- C huruizjanaikaqte juqtadaqkedai
古いじゃないかって 言ったわけね
- F aNnatokoi uzumerudakedo do:site so:jaqtamoNzurana:
あんな所へ 埋めるんだけど どうして そうやったもんだろうな
- C daitai iqsjoni, sumaiseruzja naikana
だいたい 一緒に 住むのでは ないかな
- F do:ju:
どういう
- A soidena, hitocuno hakaena: kodomoto, ano otonano
それでな 一つの 墓へな 子供と あの 大人の
- kaimjo: hoqte arudajo, cjaNto soide jo:me:ziga ano:
戒名が 彫って あるんだよ, ちゃんと それで 陽明寺が あの
- kakocjo: hoqte mitarana, korewa do:mo onazitosini,
過去帳 繰って みたらな これは どうも 同じ年に
- onazijo:na bjo:kide siNdanozja naikaqte jo:me:ziga
同じような 病気で 死んだのでは ないかって 陽明寺が
- ju:dakeN, kakocjo: nokoqtetada sorega, sorede ano:
いうだけけれど 過去帳に 残ってたんだ それが それで あの
- korja: ho:rekinaNneNno, icu siNdaqte ju:koto wakaqta
これは 宝歴何年の いつ 死んだって いうことと わかった

C asoko¹nsa:.....
あそこの所

A tazisa¹nno¹ sorja: ano: ima kazusa¹nno ju:¹na:
太治さんの それは あの 今 和さんの いうのは

F saiso¹ muen¹botokeno hata¹keda: aremo na: ze¹nze¹n
最初 無縁仏の 島だよ あれも な ぜんぜん

soide ohana: kaza¹qtesa, de sa¹nme:torusika sita¹qzura¹
それで お花を 飾ってさ で 三メートル(しか)だけ したんだろう

sorja:
それは

A tazi¹ro:sa¹nno arja: se¹nzoda¹q¹cjo:¹na:
太治郎さんの あれは 先祖だそうだ

F sa¹nme:toru¹gurai do:mo are¹qkara konogurai
三メートルぐらい どうも あれから このぐらい

sa¹nme:toru¹gurai
三メートルぐらい

A me:¹zini cikaito¹kino
明治に 近いときの

B size¹n¹ni si¹nsjokusite hukaku na¹qta¹zura cuciga no¹qte,
自然に 侵触して 深く なったんだろう 土が 乗って

zja:¹naika ho¹qtea¹qta
ではないか 堀ってあった?

(子供) iketa
埋めた

B iketa:
埋めた

G tazi¹ro:sa¹nno arewa nanikara kuruno¹ga
太治郎さんの あれは 何から くるのが

A ora¹n ucino:¹wa
俺の 家は

B he:kiNsa, naraozja: hukaku hoqte ikeruqcju:wana:
平均ね 檜尾では 深く 掘って 埋めるっていうよね

F kuzureno:demo sugoku horudajo
崩野でも すごく 掘るよ

B hukaku:
深く

G kuzureno:zja: saNme:toruguraidajo naNde, do:site
崩野では 三メートルぐらいだよ なぜ どうして

horukaqcju: kotowadana areN kowaidatte ano teNni
掘るかっていう ことはだな あれが 恐いって あの テンに

teN teNga kuqcjau
テン テンが 食っちゃう (埋葬死体を)

A okuzja:, miNna teNga horu
奥地では みんな テンが掘る

B narao:demo naNsjo hukaku horu
檜尾でも とにかく 深く 掘る

A teNga miNna ko kuqcimaudaqte, mo: kaNtaNni horutona,
テンが みんな こう 食ってしまうんだって もう 簡単に 掘るとな

miNna teNga kuqcimau, soide ano: hakoga ko:
みんな テンが 食っちゃう それで あの 箱が こう

arutona: hakobaqka nokoqcjaqtana:, nakamiwa zeNbu
あるとな 箱ばかり 残っちゃってね 中味は ぜんぶ

hiqkonuicjaqte monosugoku (以下不鮮明)
引っこ抜いて ものすごく

D kagianano kudarinisa: hiro:itoko arura, asokono
鍵穴の 「下り」に行くと 広いところが あるだろう あそこの

mo:ciqto muko:de
もう少し むこうで

A kokoraqzja okuni sitagaqte maibocuwa zeNbu
ここらでは 奥地に入るに従って 埋没は ぜんぶ

hukaiNdajo
深いんだよ

(中略)

Y teNcju:na: donoqkuraino moNdane sono o:kisawa
テンというのは どのくらいの ものですか その 大きさは

B teNwa teNwa taigai areša nekota: ci:to ikaidaNsa:
テンは テンは たいがい あれさ 猫よりは 少し 大きいだがね

ikaijo teNwa
大きいよ テンは

G o: ikai jaca:na:
おゝ 大きい やつはね

B ikaijaca: nekota: ikaijo, kicuneta: ci:saigana:
大きいやつは 猫よりは 大きいよ 狐よりは 小さいがね

so:dana: naniqejugtara e:kana: nekota: ikaisi
そうだな 何といたら いいかな 猫よりは 大きいし

tonikaku
とにかく

B itacikadaina: arja:na:
いたち科だよな あれはな

F naNde koNna hukaku horunokaqte ki:tarasa:, ki:tara,
何故 こんな 深く 堀るのかって 聞いたらさ 聞いたら

teNga omae ku:de, kokoumerudaqtaqja:, huzimorizjuici-
テンが お前 食うから ここへ埋めるのだって言ったっけ 藤森寿一ってね

qtēna: o:jazi, anoojaziwa naNcju:na:, zju, zjuiciqte
おやじ あのおやじは 何というかな じゅ 寿一って

arura, zju:icizjanai zjuiciqte zi:saNga anotoki
あるだろう じゅりいちではない 寿一って じいさんが あのとき

iqtaqja:ja monosugoi maqkurakeNtokoni oru naNde
言ったっけよ ものすごい 真っ暗がりのところに いる なぜ

kurudaq¹cjuqtara teNga¹ kurumoNde¹ ko:sitadaq¹cjo:¹
来るのって言ったら テンが 来るから こうしたのだそうだ

B ka¹toecjaumoNde¹na:¹ hoidamoNde¹
 飢えちゃうからな それだから

F asokoni¹ irja¹ teNga¹ ku:rai¹ mo:¹ jamaNnakadade¹
 あそこに いれば テンが 食うだろうよ もう 山の中だから

B sorja:¹ ku:sa¹ tasikanina¹
 それは 食うさ たしかにな

F monosugoi¹ jamaNnakade¹ siNringana:¹
 ものすごい 山の中で 森林がな

B so:¹dana:¹
 そうだな

6. ムササビのこと

話し手 A …… 森田 一 B …… 湯本泰弘 C …… 森辻広良
 D …… 森 好一 E …… 湯本哲男 F …… 湯本和男
 G …… 森下忠喜 Y …… 山口幸洋

解説 テンの話を受けて、ムササビの話が出る。

A musasabiga hoNto:zuraga
 ムササビが 本当だろうが

D musasabiqcju:jaca: zo:kiN kamaeteru jo:najaco:
 ムササビっていうやつは そうきん 広げてる ようなやつを

 ju:zura, arja:, cigauka:
 いうんだろう あれは, 違うか?

A arja: baNdori
 あれは バンドリ

B baNdorinokoto:, arja:, momoNga:qte ju:dajona: kokowa,
 バンドリのことを あれは モモンガーって いうんだよな ことは,

 baNdoriwa momoNga:daga, momoNga:daga musasabiqtemo
 バンドリは モモンガーだが モモンガーだが ムササビとも

 juwja: ano, baNdoriqtomo juwa:na:
 いえ あの バンドリとも いうよ

E arega hoNtozjanai
 あれが 本当じゃないの

D omosiroimoNdana:a mata:, mata uwe: noboqtekudana:
 おもしろいものだなあ また, また 上へ 登って行くんだな

G taka:kukara sa:qto kudari: mauni
 高くから さあっと 下りに 舞うのに

E hikukukara taka:wa maieNdana
低くから 高くは 舞うことができないのだな

B risu, risuwo musasabiqteju: sitomo arudaze, kinezumi
リス リスを ムササビっていう 人も あるんだぜ キネズミ

kinezumi kinezumiqcja: ju:gana:
キネズミ キネズミって いうがな

7. 美代助や作辰のこと

話し手 A …… 森田 一 B …… 湯本 泰弘 C …… 森 辻 広 良
 D …… 森 好 一 E …… 湯本 哲 男 F …… 湯本 和 男
 G …… 森 下 忠 喜 Y …… 山 口 幸 洋

解 説 私（山口）が、新居に大川村坂ノ上生まれの宗野美代助氏がいて、
 親しいと話したところ誰も美代助氏を知らず、このミヨスケとい
 う名について種々いい合ってふざける。次いで村の人気男の作辰
 （ドーカン辰ともいう）のことが話題にのぼる。

D 「so: noqɔcɔjuja sakanokamizjanaika
 宗野といえは 坂の上ではないか

B 「so: nowa sakanokamiqdana:
 宗野は 坂ノ上だな

C 「naNsaiguraidakana:
 何オぐらいなのかな

F muka: si? muka: si?, saikiN, saikiN
 昔の人? 昔? 最近の人か 最近?

Y saikiNte mo: araie sumicuitamoNdai nizju: neNguraini
 最近って もう 新居へ 住みついたから 二十年ぐらいに

narukana: miNnano konoheNno tosiɔzja: cɔqɔto
 なるかな みんなの このへんの 年では ちょっと

siraNkamo sireNne:
 知らないかも しれないね

F oto: saNka, oto: saN
 その人はもうお父さんぐらいの年か?

Y so: so:
そう そう

D hai joikaN zi:saNzurai, zi:saNzuraina:
もう 良い加減な おじいさんだろう じいさんだろうな

F mijosuke, ki:takoto aruna:, ki:takoto aruna:
美代助 聞いたこと あるな きいたこと あるな

Y so:no so:no naNtoka juqtane: asokono
宗野 宗野 何とか 言ったね あそこの本家

F ki:takoto aruja:, ki:takoto aruja:
聞いたこと あるよ きいたこと あるよ

Y jaqpari ano sakutacuqte ju:sitono do:kju:daqte
やっぱり あの 作辰と いう人と 同級生だって

juqtakedone:
言ったけどね

D soizjasa tadani:cjara siqterura
それでは 忠兄ちゃんあたりは 知ってるだろう

F sakutacuto do:kju:qzja:na:
作辰と 同級ではな

D so:no mijosukedaqte
宗野 美代助だって

F mijosukeno kozo:zura
美代助の 子供だろう

D kazuni:
和兄

F minosukeqte arukai sakanokamiqde
ミノスケって あるかい 坂ノ上で

A minosukeqte ju:sitoga iqte:ruqte ju:zura, soqcie,
ミノスケって いう人が 行っているって いうんだろう そっちへ

araie
新居へ

- F ki:takoto arujo:na kiga suruna: minosuke
 きいたこと あるような 気が するな ミノスケって
- G tanto sirano:, minosukeqte mino:de
 よく 知らない ミノスケって 見ないから
- aredai, mireba wakarudai minosukemo
 あれだよ, 見れば わかるよ ミノスケも
- Y nozjanakute, mi, jo
 ノじゃなくて, ミ, ヨ
- G mino:de wakarano:
 ミノーデ ワカラノー (見ないからわからない)
- D mijodaqte
 ミヨだって
- B mijosukedaqte
 ミヨスケだって
- D joqku mijosuke
 ヨック (よく) ミヨスケ (「よく見よ」をもじる)
- F joqku mijosukeka
 ヨック ミヨスケか
- B so:nowa sakanokamidana tonikaku
 宗野は 坂ノ上だな とにかく
- G mijosukeguraizja, sukebe:jaro:zura
 ミヨスケぐらいでは 助兵衛野郎だろう
- A mijo, joqteguraizja:ka
 ミヨ ヨってぐらいではか
- G mijosukeguraizja: sukebe:jaro:zuraja
 ミヨスケぐらいでは 助兵衛野郎だろうよ
- G do:mo kjo:ka: naija
 どうも 記憶は ないよ
- C koNnakoto juqte sonositoni kikaserunokaja
 こんなこと 言っ て その人に きかせるのかね

G do:mo¹ kiokuwanai¹ huNto¹
どうも 記憶はないよ 本当に

A juzima¹qcu: tokoi¹ iqte¹ toqtekitana¹: naNte¹
湯島っていう どこへ 行って 取って来たな なんて

C kamijuzimano¹ ko:siNsaNno¹ sju:ga¹ koreni¹ sjabeqta¹
上湯島の 庚申譚の 人達が これに シャベった

jacudanaNte¹ kikasaretara¹
やつだなんて 聞かされたら

G a:nojaro¹: da:rega¹ hoNnakoto¹: iqtadanaNcjuja¹:
あの野郎 だれが そんなことを 言ったなんて言えば

arja¹: hacibe:zuraja¹ naNteju:dade¹ sjoNnai¹,
あれは 八兵衛だろうよ (24) などというんだから 困る

aria¹ sjoNnaiizo¹ arja¹
あれは しょうがないで あれは

B sorja¹: komaqtana¹:
それは 困ったな

G arja¹: sjoNnaiizo¹, do: sijo:mo¹ nai¹
あれは しょうがないぞ どう しょうも ない

F sakutacuno¹ iqpoNni¹ kakaqcjaqcura¹
作辰の 一本に かかっちゃっただろう

G arja:na¹: ko:cjo:seNse:daqcju:de¹, kusurjo:¹, kusurjo:¹
あれはな 校長先生だというので、 薬を 薬を

joku¹ okujaro:ga¹ kite¹ iqtesa, koNja¹ sono¹ ko:cjo:se-
よく 置く野郎 (薬売りが 来て 行ってさ 今夜 その 校長先生の

Nse:no¹ uci: tomarudade¹ ko:cjo:seNse:qcju:de¹ ora:¹
家に 泊まるんだから と校長先生っていうので 俺は

nanjo: jaro: ju:so:na¹ tomoqte¹ toqpimonaikoto:¹
何を この野郎は 言うんだろう と思って、 突飛なことを

ju:dena:, ko:cjo:seNse:qte¹ iqtai¹ omae¹ areda:¹ sono¹
いからな、 校長先生って いったい お前 あれだよ その

kjo:iNzju:takui tomaju:ni jaro: sitazurakana:
教員住宅に 泊まるように こいつ しただろうかな

tomoqte orja: kaNgaetetada: ho:sitara, daNdaNdaNdaN-
と思って 俺は 考えてたんだ そうしたら だんだん聞いてみたら

sitara, gotacukino ko:cjo:sense:Ntokoi tomarudaqte,
ゴタツキ (冗談) の 校長先生の所へ 泊るんだって

a:rezia: jaqto wakaqta
あれでは やっと わかったという次第で

F kokoi tomaruka aNta
ここへ 泊るか あんた (山口に対し)

Y ha: ?
え ?

D zicuni:Ntokodaqte zicuni:Ntoko
実兄の所へ泊るんだって 実兄の所

F daizicue horazicue
大実 (大工の実) へか, ホラ実へか

C zicudaisaNzura
実大さんだろう

D zicudaisaNdaqte
実大さんだって

A soNnakoto: ju:naja
そんなことを いうなよ (Fに対し)

G zicudaino tokoi tomarja: aresa wasino ka:sanga
実大の 所へ 泊れば あれさ わしの かみさんが

itokodakara
いここだから

Y a:so:da soNnakoto juqtane
あゝそうだ そんなこと 言ったね

G jorosiku tanomimasu
よろしく 頼みます

- B da'rega juqterudaka
誰が 言ってるのか
- C wakaq̄cjauzo hoNnakoto: ju:to
わかっちゃうぞ そんなこと いうと
- G hoidaN ora te:bo:wa zeqtai korja
だけど 俺 テーボーは ぜったい これは
- F bakajaro: daizicuiiqte tomaru bakajaro:ga arukai
ばかやろう 大実へ行って 泊る ばかやろうが あるか
- A geNkoco: kureruzo omae
げんこつを くれるぞ お前
- F bakajaro: naNde: oreNtokoi tomare:
ばかやろう なぜ 俺ん所へ 泊れ
- A wadaio kaeruzo
話題を かえるぞ

注

- P 5 (1) 旧安倍郡井川村、静岡市に編入。大川村の山をへだてた北にある。
- P 5 (2) 旧大川村檜尾。崩野、大間とともに、高地にある。
- P 6 (3) 当方言本来のいい方としては、このように用言のあとにNは認められない。これは方言を改めているいい方である。このようなことは、最近の地方方言の情勢として、しばしばありうることである。
- P 7 (4) かぶと虫の一種という。
- P 10 (5) 「置いて行こう」という意味で「意思未来」形。
- P 10 (6) 主旨がよく判らない。
- P 15 (7) 檜尾、崩野、大間のこと。
- P 15 (8) 静岡市羽鳥。大昔、大川村大間と羽鳥のあいだには、人の住む村はなかった、という伝説のことを話している。
- P 20 (9) 旧安倍郡玉川村、静岡市に編入。大川の山をへだてた東北にある。
- P 20 (10) 旧玉川村柿島。
- P 21 (11) 旧安倍郡清沢村小島。静岡市に編入。大川村と同じ川筋にあり、南方。大川村方言と同じギラ方言に属す。
- P 21 (12) 旧清沢村鍵穴。やはり同じギラ方言に属する。
- P 22 (13) ドーカン淵の上に家を構えている「作辰」という男のこと。
- P 22 (14) この dadai は、「だいたい」を早口に云ったパロール的なものかもしれない。
- P 22 (15) この講に参加している森下さんのこと。
- P 25 (16) 「お前」の意
- P 26 (17) 旧大川村坂ノ上。
- P 26 (18) 旧大川村日向。旧役場所在地。湯島の南にある。
- P 31 (19) 当方言本来のいい方ではない。本来は、sirano:qke。

- P 37 (20) この ja も、当方言のふつうのいい方としてはおかしい。
- P 37 (21) キャール(蛙)も、ナクンテ(泣くから)も、静岡市方言であるが、大川村方言では云わないいい方である。
- P 42 (22) to が抜けているのも、当方言本来のいい方ではない。
- P 45 (23) 磐田郡水窪町。
- P 59 (24) 森下忠喜さん宅の家の名。

非 売 品

1972年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

115 東京都北区西ヶ丘3丁目9番4号